

地域密着型サービスの自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型としての理念を再構築中	○	法人理念の刷新に伴い新たに独自の理念作りを行っていきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい理念が提示され取り組んでいるが、出来ている部分と足りていない部分がある。理念についてのコミュニケーションが出来ていない	○	理念については定期的に意識する機会を作りたい（職員会議など）
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族へは新聞（便り等）で伝えたりしているが、取り組みもたりず、理解されていない部分もある	○	便りを公民館や周辺の医療・保健・福祉関係機関に送付するなどの方法で理解を深めてもらうことも検討したい
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々に声をかけたり（日常の挨拶程度）は出来ているが、なかなか気軽には立ち寄ってもらえていない	○	行事（あく巻き作りや餅つき等）を通して案内等を行い、参加していただき親交を深めたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小中学校のボランティアの受入れや夏祭りなどを通じて交流を深めているが、積極的に外に出て行く機会が少ないなど、こちらから活動することはあまり出ていない	○	地域の行事、活動に参加し地元の人との交流に努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等への取り組みに関しては取り組めていない	○	地区社協の「介護者のつどい」での勉強会などの機会はあったが、十分とは言えない。職員が考えていることの実現に向け一歩踏み出すようにしたい（事業所だけでは難しいので包括支援センターと相談したい）
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義の理解は出来ていると思うが、改善に関してはなかなか思うようにはいっていない。出来ることからひとつずつの努力はやっている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容等も、後日書面で職員にも回覧され内容が良くわかるようになってきている。サービス向上に活かせるよう努力は行っている	○	利用者の参加も実施されるようになってきている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外の行き来は現在は機会がない	○	現在は管理者と市町村との関係にとどまってしまうので、その活動については全職員に伝えるように報告を密に行っていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は理解しているが、その他の職員の学ぶ機会はこれからあると思う。必要な人（利用者）には活用できるよう説明している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で学ぶ機会を作った。見過ごすことのないように職員同士で話し合いながら、虐待防止徹底には努めている		職員会議でも虐待となる行為についての勉強会を実施。全職員に資料を配布し確認をしてもらっている。不定期ではあるが、環境面での工夫で防止できないかの話し合いを行っている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>管理者から説明を行い理解納得が得られている</p>	○	管理者のみならず、全職員が同等の説明が出来るよう教育の機会を作っていきたい
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>特別な機会には設けていないが、日常生活の中で言えるような関係作りを行っている</p>	○	意見や要望があった場合には言われた職員より他の職員へ伝え対応の話し合いを行っている。事業所内で対応できるものに関しては、直ぐに取り組んでいきたい。運営に関するものは、運営者に実情把握してもらえよう報告を行い改善を図っていく
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p> <p>面会時に報告を行ったり、季節に合わせてホームの新聞（便り）を発行し家族へ送付している。健康状態変化に関しては電話にて連絡を取っている</p>	○	便りを2ヶ月毎程度に発行できるように調整を進め、定期的に利用者の様子を伝えていきたい
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>機会は設けていないが、面会時に不満や希望を受けられるようにしている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>月1回の職員会議の機会があり全部ではないが反映できている。サービスの向上に向け悩み等を各ユニットより出し問題解決に努めている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>勤務調整は行っているがかなり厳しい状況のときもある（職員が少なく調整が難しい）</p>	○	行事等の予定にあわせた出勤者の増員、台風接近時の各ユニットへの夜勤者配置（通常2ユニット兼務）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配慮されてるとは言いがたい。離職者の多さも目立っているので、労働環境の整備が必要	○	運営者に向け利用者の生活を安定させるための、職員の質を確保の意義を伝えながら、異動や離職の防止につながる労働条件の構築を提案しています
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みは出来つつある（研修や職員会議）外部研修については勤務の都合で思うように参加できない。研修の報告が（内容について）行えていない（職員会議での報告はあるが）	○	今年度途中より法人内の研修が計画実行されている。次年度以降は内容も強化されると思う。計画的な参加予定を立てることも可能かと思われる
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前よりは研修会等の参加への理解や機会等増えてきたと思うが、職員数の不足によって思うように参加できていない事も現状		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	人も少なく時間がないため、休憩時間が取れない、そのためのスペースもないので工夫されていない	○	事業所内での工夫には限界があるので、運営者に現状の理解を働きかけていく
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員レベルでは話し合いをしながら努めているが、法人全体としては取り組みが目に見える形で感じられない	○	次年度より法人内に人事部が設立され、人事考課の制度を実施することにはなっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始前の訪問時以外特別な機会は作っていないが、話を聴きながら何を望んでいるのか把握できるように努力している	○	聞き取りの際の帳票の工夫を行い（センター方式のシートを利用前に書いてもらうなど）信頼関係構築の一助にしたい。現状では利用開始前に調査票になるべく具体的な記述を取り入れ全職員が確認できるようにしている
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一部の家族に関しては出来ていない（遠方であったりの理由で・・・）利用開始前の相談については管理者が窓口となって行っており、相談記録をつけ管理、不定期ではあるが各ユニットへの報告も行っている	○	距離に関係なく関係を結べるように電話や文書などの手段を使いながら行っていきたい
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には内容により他のサービスや制度についての情報提供や助言を行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能であれば、利用開始前相談時点で、本人にも来てもらい見学してもらう事もしている（家族と話をしている間、利用者と過ごす時間を作ったり）が、体験的な入居の形は実施していない	○	可能な範囲で利用希望者本人に来てもらえるような働きかけを行っていきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に時間を過ごしながら一部は築けている。支えあう関係については本人が頼っているのが、家族であったりするため難しい	○	本人の全ての支えになることは難しいが、事業所内での生活における支えになれるよう、常に本人の立場になってかかわるようにしていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の頻度に差はあり、全ての家族とまではいっていない	○	現状の把握と理解をいただけるような機会を作っていきたい。面会の少ない家族への働きかけも行っていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に話をする時間を作ったり、電話や手紙を通して希望など連絡をしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	なじみの場所や人の所に行く機会は十分持てず、人によっては完全に途切れてしまっているかもしれない	○	支援を行えるように、本人のなじみの場所などの把握と実現に向けての時間を作れるように努めたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係の把握は出来ているが、孤立気味の方がいる	○	孤立することが本人の望むものなのか？ どういう関係性を求めているのかについての分析が不十分であるので、まずはそこから把握し支援の方向性を見つけない
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時の支援は当然だが、移り住んだ場所への訪問（見舞い）なども状況に応じて行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを尊重するように心がけているが、十分に聞きとれていない。	○	日常の会話などの中から本人の思いや希望を汲み取れる様に心がけていきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人から発せられる言葉等から把握しているが、十分出来ていない	○	情報の収数と共有、ケアに活かしていく為にセンター方式のシートを活用しながら更なる把握に努めたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録などによって情報としての把握、その日の本人の様子など現実の物としての把握は出来ている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族とは十分に話し合いは出来ていない	○	話し合いという形にこだわらずに、会話の中からヒントやアイデアをみつけていきたい。内容については記録という形でしっかり残していきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画までは十分に出来ていない	○	話し合いと本人、家族の意向を元に計画の作成を行っていくため、担当者の計画作成時間を業務の中に明確に位置付けていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を行い職員同士話し合いを行い情報の共有をしているが、記入漏れなどもあり活用しきれていないのが現状	○	日々の記録がモニタリングとなるような活用にしていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族などの要望は出来る限り応じ、支援をしていると思う		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域住民や教育機関などの資源に関しては協働が出来ていると思うが、消防などに関しては地元消防団との交流が出来ていないなどの部分がある	○	消防団や警察なども交えての災害訓練などの実施ができるように働きかけを行っていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用はあまり行えていないが、医療的なサービス（歯科衛生指導や福祉用具の導入など）の活用支援は行っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現段階では協働は行えていない	○	制度の枠組みの中での利用者を介した協働は難しいが、事業所の機能を活かす（認知症介護の啓発活動など）は協働できるのではないかと考えるので、こちらからも働きかけを行っていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業者が納得いくまでの体制にはなっていない。本人及び家族等の希望を大切にしたいのだが、思うようにいっていない	○	かかりつけ医側の思いがあるのだろうが、変えられるよう病院と話し合いの機会を持ちながら折り合いを付けていきたい。病状の進行に対して家族が遠慮なく申し出られるような体制作りも事業所として取組まないといけない
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医を通じての相談になっており、十分な支援が出来ていない(生活を通して認知症を理解してくれる医師の情報が把握できていない)	○	かかりつけ医との関係もあり難しいところもあるが、専門医(精神科心療内科ということではなく)との関係作りをしていきたい
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職との協働は十分ではないが出来ている。わかる限りの利用者の情報を提供し知ってもらうようにしている(入居の長い方に関して病歴が不明確な方もいる)	○	看護職とのコミュニケーションを円滑に出来るよう、各職員必要最低限の医療的な知識を身につけていくことも必要と考えている
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	完全ではないが回復具合の確認や事業所の受入れ条件などの情報交換を行い連携をとっている		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人はなかなか話し合いの場に参加する事は難しいので、家族と行っている。かかりつけ医とは看護師を通して(基本的には)行っている。事業所の最終判断は管理者が行っており、十分に全職員と共有するという部分ではズレがある場合もある	○	ケースごとに違いはあるので(利用者の状態、家族の希望、事業所の状態、職員の体制等)ケースごとに対応は異なっていくであろうが、方針や書類についての話は職員会議等を通じて周知を図っていく
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	十分ではないものの出来る限りの事は行っている。変化に備え検討や準備は職員と管理者との話し合いで出来ること出来ないことについて行っている。チームの機能としてかかりつけ医との意見が食い違いが生じることがある	○	終末期を迎えるにあ当たっては個別に覚書を交わし対応をしている。かかりつけ医には事業所の方針を伝えていくと同時に、各職員の力や事業所の機能の理解をしてもらえるような働きかけ(細かい報告や実践の報告)を行い理解を深めてもらい協力の強化を図りたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の意思より家族の意思が中心になって(十分本人に確認できていない為)話し合いや情報交換がたりていないと思う	○	入居時に使い慣れた家具など持ち込んでもらい物的な環境面でのダメージ軽減には努めているが、心理面精神面にも配慮するため情報の交換を入居前の時期から十分に行えるようにしていきたい
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	十分に配慮はしているつもりではあるが、絶対ではないかもしれない(相手がどう思ったかによってはプライバシーを損ねることもあると思われる)	○	記録面においては言葉の使い方などに配慮すること。他の面に関しても職員間で気付き合えるようなチームを作る為に勉強会などで定期的に学び意識できるようにしたい
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来る限り希望に応じるように努めているが、職員の都合(人数の問題)で出来ないときもある	○	業務の流れが優先されないように、各職員が意識をもって働きかけの場を増やしていきたい
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の時間的なもの職員数などによって希望に添えていないことがある	○	評価の結果なども踏まえながら、適正な職員数の確保を運営者に伝えていきたい。同時に利用者の希望をしっかりと把握する為の聞き取りや日々のかかわりを心がけていく
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一部の人は美容院へ出かけカットや毛染めをしている。職員がカットする場合は希望を聞いている。出張してくる美容師にたのむ人もいる	○	身だしなみについても気付いたときには直ぐに対応している。本人が望むようなオシャレはどんな物なのか日々のかかわりの中でみつけていきたい(雑誌や広告テレビなど視覚に訴える物を利用しながら)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運営上配食のため、作る場面は少ないが一緒に準備や片付けなど出来る範囲の事を行っている	○	出来るだけ全員で準備ができるようにしていきたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒タバコについては支援はしていない(利用者がいない) 日常的には無理だが好みに合わせる努力はしている	○	一部の利用者は家族により届けられた、買い物に行き購入したお菓子を居室内で楽しんでいることもある。本人が好む物や、希望については、日常のかかわりの中で把握しながら実現できるようにしていく
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を利用しながら個人のペースに合わせたトイレ誘導を行いオムツの使用をできるだけ減らす支援をしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間が限られてし待っているが、入浴時は希望に合わせてゆっくり入ってもらっているが、まだ職員の都合によって行っている(人手不足)	○	希望にあわせた入浴ができるように本人の意思確認に努めると同時に、勤務時間の変更や人員の増員などの検討を運営者にも働きかけていきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠表の記録など個人の睡眠パターンの把握でスムーズな休息が取れるように支援をしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯や炊事など本人の出来る力を活かした役割を持つような支援を行っている。散歩をしたり、外出など気晴らししているがまだまだ不十分だと思う	○	外出などは喜ばれているので継続できるようにしたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理している人は限られているが、近隣のコンビニへの買い物など(たまにであるが)使用の機会を作っている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	園内での出入りは自由に行えているが、その日の希望に沿って外出をすることは十分に出来ていない(人手不足)	○	希望に沿った支援が出来るような人員の確保を運営者に理解してもらえるように働きかける
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出はよほどの事(体調面)がない限り自由に行かされている。月に一度の外出に関しても希望に沿った形で行っている	○	月1回の外出回数をもう少し増やして行きたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など本人から行うことは希望も聞かれず支援していない	○	支援する体制はあるので、もう少し本人に対して働きかけをしていきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時も居室やリビングで心地よく過ごしていただいている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各職員が理解し取り組んでいる		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	ヒヤリハット報告書や事故報告書を活用し安全確保のための対策を考えている
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	危険な物かどうかの判断に関して定期的話し合う必要がある
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	引き続き報告書は記入していくが、原因欄と対策欄の記入をもう少し詳しく書く必要がある
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	救急法の研修も含め繰り返しの訓練を行って（利用者個々の状態に合わせたロールプレイなども考えたい）
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	運営推進会議でもとりあげられているので、協力体制が得られる働きかけを行っていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	○	口頭で終わってしまっている事も多くあるので記録をすること、プランへの付け加えをすることを徹底したい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	○	発見時の相談は管理者もしくは看護師を通じてかかりつけ医へ連絡され指示を受ける。急激な変化など急変に対しては救急対応などが行われている。予想される変化に対しての予備知識をつけるための勉強会などを行い、更なる向上を行っていききたい
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	副作用についても解るように一覧表の再作成を検討していく
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	○	排泄行為自立者の排便確認が不十分になりがちなので、しっかり確認を行って行きたい
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルがあり実行している。基本的には手洗いうがい、おむつ交換時の手袋着用の徹底		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手指の消毒、賞味期限の確認などおこなっている。まな板包丁は殺菌庫に保管し殺菌している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地への入り口の門があり建物までの距離があり親しみ感が少ないような気がしている。玄関周りなど手入れが行き届いていない部分もある	○	門扉周りに関しては費用的な問題もあるため難しいと思われる。景観を損なわない形での看板等（表札）の設置が出来れば少しは印象も変わるのではと考えている。玄関周りなどについては掃除の徹底で対応していきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるような壁飾りなどを行っているが、幼稚っぽくならないように気をつけている。トイレ等が施設風なつくりになってしまっているので、カーテンをつけて外から見えないようにするなどの工夫を行った	○	費用との兼ね合いがあり、実現の難しい物もあるが手すりの設置など可能な範囲で実施していきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを設置するなど行い気の合った人同士で話す場面も見受けられているが、全ての利用者に対応しきれない全体的に施設っぽさがあるので工夫が必要	○	使用しているベンチも屋外用の物であったりしている、中古品など家族にも協力してもらいながら備品を準備していければと考えている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の使い慣れた物の持ち込みは概ね出来ているが、事情によっては全くない方もいる。室内は使い易いように工夫（配置など）している</p>	○	<p>持込が難しい方への対応については利用開始前に十分話を行い理解をいただくように行いたい</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>各居室には換気扇もありこまめには行っている。温度調節も同様に行っている</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要と思われる場所に手すりがないなど安全とは言い切れない。家具等の配置工夫で補っている</p>	○	<p>事業所の内部での工夫で対応を続けるのと同時に、状態変化に対応して物品の購入が出来るように運営者に働きかける。</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>混乱を招くような場面があった場合には対応を行っている（居室やトイレの場所の明示の工夫など）が十分ではないときもある</p>	○	<p>利用者の状態（行動や言動）に注意を払いながら、柔軟に環境（配置など）を変える事に対して職員が共通の理解をすること（むやみに反対したりしない。しっかりと検討してやってみる）</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>外での活動に関しては一部の利用者は活用できているが、全員となると出来ていない</p>	○	<p>もう少し花を植えるなど、利用者の気持ちを触発するような環境作りを行って行きたい</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の方の持っている力を引き出せるような支援をしていきたいと考え、日々取り組んでいます。